

『難民になったねこ **クンクーシュ**』

出版記念 連続トーク

# 難民問題と私たち

『難民になったねこ クンクーシュ』（かもがわ出版）の刊行を記念し、今、世界が解決を迫られる喫緊の課題・難民問題をテーマに、連続トークを企画いたしました。

本書の翻訳を担当した中井はるのさんをインタビュアーに、多彩な顔ぶれのゲスト4人をお招きいたします。

ひとりの市民として、子どもたちとともに学ぶ教師や司書のお立場から、本づくりの現場からなど、難民問題への多様なご関心にお応えしたいと思います。



『難民になったねこ **クンクーシュ**』

文 マイン・ヴェンチューラ

絵 ベディ・グオ

監修 ヤズミン・サイキア

訳 中井はるの

かもがわ出版／定価 本体 1700 円＋税

会場 神保町 **ブックハウスカフェ** 参加費 1500 円

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-5 北沢ビル1F

平日 11:00~23:00 土日祝 11:00~19:00

「神保町」駅 A1 出口徒歩 1 分!

主催 **ブックハウスカフェ** 協力 **かもがわ出版**

予 約 : 要 (店頭/E-mail [yoyaku@bookhousecafe.jp](mailto:yoyaku@bookhousecafe.jp) /お電話 03-6261-6177)

★メールでご予約の際は必ず、件名に「●月●日『クンクーシュ』トークイベント」として、本文に「お名前フルネーム (よみがな) /お電話番号 /ご参加人数 (大人/子ども)」をお知らせください。

予約・お問い合わせ **ブックハウスカフェ** 電話 03-6261-6177

## 連続トーク **プログラム** (予定)

【各回時間】 18:30 開場 **19:00~20:30**その後サイン会

..... ● **インタビュアー 中井はるの**さん

翻訳者。東京都在住。子どもの誕生をきっかけに、児童書の世界に入る。『木の葉のホームワーク』（講談社）で第60回産経児童出版文化賞翻訳作品賞受賞。『ちっちゃなサリーはみていたよ』（岩崎書店）、『ワンダー』『もうひとつのワンダー』『365日のワンダー』（ほるぷ出版）など、児童書・絵本の翻訳多数。



ゲスト.....

第1回 **10月17日** (水) **つくり手が語る** 出会いとつながりを本に込める



**桂川 潤**さん

装丁家・イラストレーター、1958年東京生まれ。佐藤正午『月の満ち欠け』『吉村昭歴史小説集成』（岩波書店）等、人文書・文芸書の装丁を主に手がける。著書に『装丁、あれこれ』（彩流社）、『本は物である——装丁という仕事』（新曜社）、共著書に『本は、これから』（池澤夏樹編／岩波新書）など。

第2回 **11月1日** (木) **難民問題** 私たちにできること.....

**守屋由紀**さん

国連難民高等弁務官（UNHCR）駐日事務所 広報官。2007年より現職。世界の難民・避難民などへの理解を促し、UNHCRの活動を日本に紹介することに従事。東京を拠点に、アフリカやアジアなど16か国の現場を訪問、直近の訪問地はバングラデシュ。Webマガジン「Agenda note（アジェンダノート）」に「国連難民高等弁務官事務所の広報日記」を連載中。



第3回 **11月20日** (火) 2018 世界子ども救援キャンペーン **イラク取材報告**.....



**千脇康平**さん

毎日新聞大阪本社社会部 記者・連載「暴虐の傷痕 イラク・IS 後」執筆。2008年入社。地方支局勤務を経て2013年から現職。管理不全マンションの調査報道などを担当し、2018年8月にイラクへ。モスル旧市街や大勢のヤジディー教徒が避難するドホーク県などを1か月かけてまわり、現地の声を伝えている。3歳になる息子がいる。

第4回 **12月7日** (金) **猫と難民家族** 絆と支援を考える.....

**大塚敦子**さん

フォトジャーナリスト・写真絵本作家。パレスチナ民衆蜂起、湾岸戦争などの国際紛争の取材を経て、死と向きあう人びとの生き方や人と動物との絆について執筆。『さよなら エルマおばあさん』（小学館）で2001年講談社出版文化賞絵本賞、小学館児童出版文化賞受賞。『平和の種をまく』（岩崎書店）、『地雷のない世界へ』（講談社）、『いつか帰りたい ぼくのふるさと 福島第一原発20キロ圏内から来たねこ』（小学館）など著書多数。

